

学術情報処理センターだより (2)

ホームページに求められるもの

日本で最初に WWW(ワールドワイドウェブ)のホームページが開設されたのは、KEK(現在の文部科学省高エネルギー加速器研究機構)である。1992年のこと。その後、大学などでも次々と試験的な運用が始まり、佐賀大学でも情報処理センター(現在の学術情報処理センター)が開設した。

WWWは、もともと実験データの国際的共有を目的として始まったが、現在では各組織からの情報発信から個人の絵日記まで幅広く利用される基本技術となった。このようになると、コンピュータネットワークの運用技術と同時に、見る人が必要としている情報を考え、その情報をいかに上手に提示するかという別の技術が重要になってくる。

WWWを介した情報公開の位置付けの変化も重要である。ホームページは、今や単なる実験ではなく、公式な情報開示手段に近付いている。位置付けの明確化とそれに対応した人的組織の整備もホームページ改良の重要な要素になる。

様々な組織のホームページを、仕事の一環として見る場合、そこから何らかの有用な情報を得ようとしている。そのような眼で見ると、基本的機能が欠落している疑いのあるホームページが結構ある。例えば、連絡先などが無いものや、適切なメニューが無く知りたい情報にたどり着けないものも多い。

学術情報処理センターのホームページはどうだろうか。広報、規定類、申請書類のオンライン化は進んでいる。利用相談や利用のためのヒントなど、システム利用のための情報の整理を進めている。学術情報処理センターが係わる研究・教育活動の情報が少ないようだ。一層の改善が必要だ。

副センター長 只木進一